

職人育成塾における 職人・技能者の育成

一般社団法人職人育成塾 代表理事 おかむら しんじ 岡村 真史

1. はじめに

香川県では全国平均の10倍程度のスピードで人口が減少するなど、専門工事業の担い手である職人・技能者の高齢化、減少が深刻化しており、建設業界においても人材不足が慢性化しているとともに、技術や技能の継承も困難な状況です。近い将来、職人・技能者不足がさらに深刻化することは必至です。

我が国の建築物に関する知識や技術を身につけ、日本のものづくり文化、そして職人文化を生んだ建築技術を担う技能者を育成することを目的に、一般社団法人職人育成塾（以下、「当育成塾」という）は、職人の担い手・人材不足に危機感を抱いた香川県内の内装関連工事を手がける9業種10社共同で平成27年11月に設立しました。

当育成塾の構想を固めたのが平成27年の夏、同年11月に社団法人の許可を受け、翌年の平成28年10月に開校。建設業振興基金が厚生労働省から受託した建設労働者緊急育成支援事業として授業を開始し、生徒達が訓練する拠点は構想段階から考えていた小学校の廃校（旧塩江小学校3階建て900m²（以下、「旧小学校」という）を、香川県高松市のご支援により無償で借り受けています（写真-1）。



写真-1 職人育成塾外観（旧塩江小学校）

また、地元の旅館組合の協力も得て、旧小学校近くの使わなくなった施設を活用し、特に県外からの訓練生の宿舎として利用できるように整備し、地域の方々とのふれあいを大切にしながら、地域の活性化も目指しています。

～当育成塾立ち上げの狙い～

1. ものづくりに触れる場をつくる
若者に建設業の素晴らしさを伝え就業を促す
2. 現役経験豊かなベテランの職人から直接指導を受ける
プロの素晴らしさを実感し、夢と希望を持ってもらう
3. さまざまな内装仕上げ業種を体感し、自らに合った職種を選ぶ
自分で決めた仕事に就くことで離職率の低下を目指す
4. 女性就業者の増加を目指す（繊細さを生かせ

る新分野として)
男の世界と言われた分野を女性の細やかな気配りで一新

- ベテラン職人に指導をさせることにより、若者に「見て覚える」という指導法ではなく、研修を通して「丁寧に教える」という意識に変化させることで、離職率低下につながるということを理解させ、教える側の再教育も行う

加した内装工事業 10 社のほかに、70 社のメーカーからも意見を集め、ポリテクカレッジ（職業能力開発大学校）や芝浦工業大学の蟹澤宏剛教授にも助言を仰ぎました。

「内装業」と言っても業種は 15 種類ほどに分かれています。そのため、育成塾では 9 業種（①耐火被覆・断熱工，②左官工，③防水工，④クロス・床貼り・金物工，⑤木工，⑥設備工，⑦軽天・ボード貼り工，⑧タイル工，⑨塗装工）全てに触れられるようなカリキュラムにしています（表-1）。

2. 職人育成塾の座学・実技

当育成塾のカリキュラムの作成には、設立に参

表-1 訓練生スケジュール

月日	曜日	午前（訓練内容）	午後（訓練内容）	教室
10月2日	月	入塾式	オリエンテーション	体育館・講義室
10月3日	火	座学 軽量鉄骨下地、ボード	座学 軽量鉄骨下地、ボード	講義室
10月4日	水	座学 防水	座学 建設一般（工具の取扱）	講義室
10月5日	木	座学 左官	座学 左官	講義室
10月6日	金	座学 クロス・床貼り	座学 クロス・床貼り	講義室
10月7日	土	現場見学会 10:00～11:30	休み	講義室
10月8日	日	休み		
10月9日	月	休み（体育の日）		
10月10日	火	座学 塗装	座学 塗装	講義室
10月11日	水	座学 耐火・耐熱	座学 耐火・耐熱	講義室
10月12日	木	足場特別教育（未経験者）（6H）	足場特別教育（未経験者）（6H）	講義室
10月13日	金	携帯丸のご等取り扱い（4H）	座学 木工事	講義室
10月14日	土	座学 建設一般（安全について）建炎防	休み	
10月15日	日	休み		
10月16日	月	座学 タイル	座学 タイル	講義室
10月17日	火	座学 金物	座学 床	講義室
10月18日	水	座学 設備	座学 設備	講義室
10月19日	木	モックアップ製作（木工事）	モックアップ製作（木工事）	実習室
10月20日	金	モックアップ製作（防水）	モックアップ製作（防水）	実習室
10月21日	土	モックアップ製作（軽鉄ボード）	モックアップ製作（軽鉄ボード）	実習室
10月22日	日	休み		
10月23日	月	モックアップ製作（軽鉄ボード）	モックアップ製作（軽鉄ボード）	実習室
10月24日	火	モックアップ製作（軽鉄ボード）	モックアップ製作（軽鉄ボード）	実習室
10月25日	水	モックアップ製作（左官）	モックアップ製作（左官）	講義室
10月26日	木	モックアップ製作（タイル）	モックアップ製作（タイル）	実習室
10月27日	金	面談	モックアップ製作（塗装）	実習室・面談室
10月28日	土	面談	休み	面談室
10月29日	日	休み		
10月30日	月	モックアップ製作（塗装）	モックアップ製作（塗装）	実習室
10月31日	火	モックアップ製作（クロス）	モックアップ製作（クロス）	実習室
11月1日	水	モックアップ製作（床材）	モックアップ製作（床材）	実習室
11月2日	木	モックアップ製作（金物）	モックアップ製作（設備）	実習室
11月3日	金	休み（文化の日）		
11月4日	土	座学 建設一般（事故事例）建炎防	休み	講義室
11月5日	日	休み		
11月6日	月	モックアップ製作（設備）	記念撮影1・清掃	実習室
11月7日	火	専門工事実習		
11月8日	水	専門工事実習		
11月9日	木	専門工事実習		
11月10日	金	専門工事実習		
11月11日	土	現場見学会 10:00～11:30	休み	
11月12日	日	休み		
11月13日	月	専門工事実習		
11月14日	火	専門工事実習		
11月15日	水	専門工事実習		
11月16日	木	現場見学会 10:00～11:30	専門工事実習+面談	
11月17日	金	専門工事実習+面談	片付け清掃+面談	面談室
11月18日	土	フォークリフト（免無学科：4H）	休み	
11月19日	日	休み		
11月20日	月	玉掛け技能講習 学科		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月21日	火	玉掛け技能講習 学科（学科試験）		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月22日	水	玉掛け技能講習 実技（実技試験）		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月23日	木	休み（勤労感謝の日）		
11月24日	金	予備日	予備日	(株)タダノ教育センター 休業日
11月25日	土	予備日	休み	(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月26日	日	休み		
11月27日	月	高所特別 学科・実技（20名）		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月28日	火	フォークリフト 学科（学科試験）		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月29日	水	フォークリフト 実技		(株)タダノ教育センター 高松教習所
11月30日	木	フォークリフト 実技		(株)タダノ教育センター 高松教習所
12月1日	金	フォークリフト 実技（実技試験）		(株)タダノ教育センター 高松教習所
12月2日	土	9:00～ 修了式		

(1) 座学・実技

前半は、まず座学を中心に建設業の基本的な知識、現場とは何か、安全とは何かを建設業労働災害防止協会に講師を依頼し、各業種の道具・工具の取り扱いや使い方を一から学び、体感し、習得できるようになっています。実際に使用する建材製品に関しての詳しい説明は、協賛しているメーカーや商社指導員へ依頼し、製品の説明を一から丁寧に講義してもらいます。

実技に関しては、指導者に各業種各社の現役一級施工技能士等の資格を持つ職長が担当するようにしています。一流のプロの技を間近に見ることができ、生の声を聞くことができる、さらには直接指導を受けられるようになっており、職人技、プロの姿を訓練生自身間近で感じ、将来の職人・技能士としての姿、目標にしてほしいという思いが込められています。

(2) モックアップ製作

内装9業種全ての実習・施工研修が可能であるマンションの一室をモデル化した「モックアップ」の製作を行います。モックアップ模範モデルはプロの職人達で製作し、訓練生達は、試行錯誤しながらプロの職人達の指導の下、チーム一丸となりモックアップ製作にチャレンジします（写真-2、3）。



写真-2 モックアップ作成の様子

(3) 専門工事

前半の実技では訓練生全員が内装業9職種に触れ、自分に合うものを選択できる期間としており、後半からはそれぞれより深く実習してみたい、やって楽しい・面白いと感じた業種を、面談を通じて3職種に絞り、各職種に特化して専門技術的なものをそれぞれが学べるよう、授業を深掘りするようなカリキュラムとなっています（写真-4）。

このように9業種全てに触れて、自身で業種を選択するというカリキュラムにしたことによって、実際の工事現場での前後作業の理解も深まり、また、自分自身で適した仕事、職種を選ぶことができるため、就業時のミスマッチも防げ、離職率も下がります。

また、指導する側である職長達も「今後一緒に仕事をするようになるかもしれない、自分の部下になるかもしれない」という訓練生に教えるわけであり、訓練生もまた自分の親方・上司になるかもしれない職人に直接指導してもらうため、どちらも共に熱のこもりようが違います。指導する側も指導される側の訓練生から学ぶことがあるなど、相乗効果も生まれ、職長自身への指導力の是非を問うことが可能となり、指導者の教育にもつながっています。



写真-3 完成したモックアップ



①クロス実習



②タイル実習



③軽天実習



④左官実習



⑤設備実習



⑥耐火被覆実習



⑦木工実習



⑧塗装実習



⑨防水実習

写真-4 9業種実習の様子

(4) 資格取得

訓練生に建設現場に必要な5つの資格

1. 高所作業車運転特別教育
2. 足場の組み立て等特別教育
3. 玉掛け技能講習
4. フォークリフト運転技能講習 (写真-5)
5. 丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育 (写

真-6)

内装業の「三種の神器」といわれる資格を取得するため、訓練終了後いつでも現場に入り作業ができます。また、資格取得によって職人・技能士としての自信、自覚、仕事への意欲を醸成することができます。



写真-5 フォークリフト講習



写真-6 丸のこ特別教育講習

3. 地域発展への貢献

当育成塾を情報発信地として、ものづくりに関心を持ってもらい、ものづくりの喜びを感じられる地元との交流行事にも積極的に取り組んでいます。具体的には、10月に塩江中学校のふれあい祭り、親子工作教室の木工教室にて本立て作り、タイル教室にてモザイクタイルでのフォトフレーム作りの2教室を開講。拠点地域で開催される6月のほたる祭りには訓練生および当育成塾理事が会場整備などボランティア参加しています。

地元のものづくりに関する行事、地元の人たちと交流し、情報を発信そして交換していくことは、訓練生のコミュニケーション能力を高めることにも寄与すると考えており、当育成塾で育った優秀な職人・技能者が地元で活躍することにより、地元（香川県高松市および塩江町等）における産業の発展と地域の振興や活性化も目指しています。

4. 今後の課題

建設業界は、工事現場に優秀な担い手がしっかりといてこそ良質な建設ができます。しかし、少子高齢化が進んでいる我が国で若年層や女性といった建設業界での比率が少ない人口を他産業と奪い合っている状況だけでなく、むしろ建設業界内で奪い合うのはおかしなことです。

若者が、「きつい・汚い・危険」の「3K」と言われている建設業を敬遠し、建設業界全体が恒常的な担い手不足に陥っていますが、仕事がきついのはどの業界でも同じことです。野球選手の泥だらけのユニフォームを、だれも汚いとは言わないのではないかと。むしろカッコイイと思うのではないかと。建設業は3Kだから若者が入ってこないかと諦めてしまっただけでは、何も問題は解決しません。

しかし、危険が伴うことは事実であり、今後は

AI, IoT などといった ICT を活用することにより危険行動の注意喚起に利用していただければ、現場の事故はもっと減らしていけるのではないかと考えます。そのため当育成塾では、試験的に VR を活用したカリキュラムを実施しており、内容をさらに煮詰めていく予定です（写真-7）。

当育成塾を立ち上げ、建設業へ入職しようとしている人々と実際に関わることでわかったことは、「若い人は建設業に興味がないのではないかと決めつけていたのは業界のほうだったということです。職人育成というのは建設業界全体の問題であり、10年、20年後に困るのは若い経営者達であり、「職人がいない、足りない」と言うだけでなく、解決に向けて行動に移していこうと呼びかけたいという気持ちでいっぱいです。



写真-7 VRで現場を見ている様子

5. おわりに

「職人育成塾」という名前には、一流の職人を育てるとともに、職人がもっと脚光を浴び、尊敬され、職人という職業が“ブランド化”される、大事にされる世の中にしていきたいという思いがこもっています。

日本の建設業は日本の伝統文化である“わび”と“さび”を備えた、世界をリードする技術を有しています。それを支えているのが職人です。職人に光が当たり、子供があこがれる職業になってほしいと心より願っています。